

## ○11 番（山口裕子君）〔登壇〕

おはようございます。ただいま登壇の許可をいただきましたので、11 番 山口裕子の一般質問を始めさせていただきます。

自分のことですが、私の人生におきまして、子育てに関わって 31 年。そして地域、Uターンして帰ってきましたので、地域に関わって 24 年。そして、議員になりまして 11 年が過ぎました。

私は、8 人家族の専業主婦をしながら、子育ての中に、いろいろと悶々とするいろんな思いがあって、だれがどういう形で世の中を決めていってるんだらうという、単純な自分のなげかけで今ここに立っているんですが、本当にほかの議員さんの意見、男性議員、女性議員にかかわらず、本当にいままで私 11 年やってきた中、ああこういう思いやら考えがあるんだということ、もう本当に自分の考えの狭さとか、男性女性関係なく、いろんな学びをさせていただきました。

これは議員としてはもう期限がありますので、1 回 1 回が大切で、自分として母親、女性としてこの時間を、しっかりと使わせていただきたいというふうに思っています。

しかしながら、いろんな議員さんの意見も聞いてみたいのに、年間通してここで、そういう意見を聞かない人もいますね……（笑い声）いや本当に地域のこととか、その人が……（笑い声）どういう想いで意見を持ってきているのかな、というふうには私は思うんですが、なかなか意見も聞かずに 1 年とか 1 期が終わってしまってるっていうのに不思議だな、というふうに私は思います。

だって女性がここにでてくるのに本当に、男性、女性、男性の皆さんも大変でしょうけど、本当厳しい中ここに立たせていただいております。（発言する者あり）

男女共同参画といっても、ごらんとおり、今回執行部に女性いないんですよ。本当にこう男女共同参加が進んでいるようにみえても、本当に厳しいところがあるということをご理解していただきたいなというふうに思います。

この大事な時間をですね、私は毎回毎回、子どもたちに今、私たちの大人がどういう社会を残すことが、幸せな社会になっていくのかなというテーマで、いつも、どういうものを本当に大切なものを残したらいいのか、っていう形でいつも提案をさせていただいています。

そしてきょうの項目は、1 番目教育について、2 番目食育について、3 番目環境について、であります。

この教育についてまず入らせていただきますが、私は子育てをしていく中いろんな PTA 活動とか保護者会の活動とかしていく中に、いろんな疑問が生まれたんですが、担任の先生と仲よくして、子どものこととか、いろんな教育のこと、相談するんですが最終的には、いや校長先生が権限がありますから、っていう形になってしまいました。そして校長先生は、いや教育長さんがこういうふうについていう、なんかそういうことでいつも、なんかどこに意見

を求めていったら、疑問に思っていることが解決するのかなっていうふうに思っていました。教育長さんは、いや県の教育委員会が、県の教育委員会は文部科学省が、っていうふうな形で、どこに責任があるのかなと思っていたんです。

まず、母親として責任をもって、いろんな活動をして実践していくべきだと思っているんですが、今回、教育改革を挙げられたのは、今までずっと堂々巡りしていたような疑問が、なんか的がぴしっと当たったような気持ちに私はなりました。ここが変わっていかないと、生きる力をもったっていうか、子どもたち、元気な子どもたちっていうか、希望をもてる子どもたちが、育つにはどうしたらいいのかっていうふうにして、子育てをしてきた中にですね、今、樋渡市長が、この官民一体の民の力を借りて、教育改革をされようっていうことに私はすごく期待をしています。

今からだと思うので、いろんな修正をしながらやっていけば、必ず良い形が見えてくるんじゃないかなっていうふうに思っています。期待をすごくするところです。

しかし、いろんな意見があって当たり前だと思います。それは良くなるためのことだから、今からどんどんいい方向になっていくと思っております、そういう私の思いを述べさせていただいて、今まで、昨日からずっといろんな意見がでておりますが、この民の力を借りる、花まる学習会の力を借りて、ほんとに市長として、また教育長として、一番子どもたちが、生きる力を身につけるために、どのように変わっていくかっていうか、期待しているところです、1番期待しているところを市長と教育長にお聞きしたいなっていうふうに思います。

〔市長「楽しく学ぶということですよ」〕

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

もうひと言でいえば、楽しく子どもたちが、楽しくわくわくしながら学ぶ機会を提供するのが、私たち政治家、あるいは行政の役割だと思うんですね。やっぱり世界一いきたい小学校をつくるぞと、月曜日になったら、はやく月曜日が来ないかという学校をつくる。

これよくね、エリートをつくるんですかというまた間違った話があるんですけど、違います。やっぱり私がそうであったように、不登校だったり、あるいは落ちこぼれといいかんですね、今。なんというんでしたっけ、学力不振、学力不振の子ね、やっぱり同じ子どもですよ、ですので学力不振の子が自信をもってね、また頑張っていこうって、人との比較じゃなくて、きのうの自分より、きょうの自分って、きょうの自分よりあしたの自分って、いうふうになっていって、それが結果的にメシが食える魅力的な大人になるだろう、というふうになると思ってるんです。

今回の議会を通じて、さまざま山口裕子議員を初めとして、いろんな論戦を戦わさせて、これこそが非常に豊かなこれからの学校運営に、直接しすることになると思っていますので、

そういう意味では感謝しています。

もう1個誤解があるのがね、もう武内小学校で決まったとやろうもんで。もう市長さん、はよ言わんねって。決まってませんよ。自動的に、そのなんかな、今、モデル校だからといって、なるということではありません。あくまでも最終的には、教育長を中心とする選定委員会で決まっていく。そして地元の協議会がね、まあ私たちがぜひやらせてほしいと、やっていきたいという意見を踏まえて、一定の基準にのっとって決めていくということになりますので、ぜひ、あの、ほかの校区の皆さんたちもね、これから基準づくりになっていくと思いますけれども、積極的に参加してほしいなど、このように考えております。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

市長と別々に考えたわけですが、私のメモもまったく一致しました。

朝、早起きして、ちょっと考えてたんですが、つまり、あの、私が書いているのはですね、子どもたちが学校が楽しいと、学び合うことが楽しいんだと、あしたも早く行きたいと思う学校であり教室でありたいと、こういう子どもたちを育てたいということでもあります。

まさに一致していたわけですが、教育長とか校長とかの問題対応等の話もありましたけれども、そういう体制をこの50年なり、明治以降なのか戦後なのか、やっぱり、いやおうなく築き上げてきた部分もあるんですよ。

うまくいくようにという思いでそれぞれ、それぞれの時代に一生懸命やりながらですね。しかし、それがやっぱりずれが生じているということは、今の子どもたちの状況を見てあるわけであり、そういう意味で、そういう制度とか体制とかということからいきますと、ぎりぎりのところがたくさん出てくるだろうというふうに思っております。非常に強い覚悟をもって、進めていきたいと。これもしかかも教育関係者、学校だけで解決することでないということは、もうはっきりしてきたということでございますので、いろんなお力を借りながら、力強く進めていきたいと、そう思いでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

11番山口裕子議員

**○11番（山口裕子君）〔登壇〕**

ほんとうに、子育てが上手なわけでもなくですね、一生懸命どの親御さんも、自分の子育てをしておりますが、大体、私も学校とかに関わって自分の子育てに関わって、だんだん世の中の流れが、子どもたちが元気がなくなるというか、なんかこう喧嘩もしてもいいし、怒られてもいいし、学校は楽しいってというような、なんかそういう雰囲気がだんだんなくなっていったような気がしてですね、やっぱりそれを取り戻すためには、どうしたらいいかなという形で、今回、こういう民の力を借りるっていうところに、私は凄く期待をするとこ

るんですが、やはり今、いろいろな説明会とか、そういう形で1番多くこう心配されてるのは、先生方の負担が大きくなるんじゃないかというふうに言われてますが、そこらへんは本当にそうなのか、実際に先生たちも、すごく期待されている先生がたもいらっしやると思うんですが、そこらへんのことをちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

まず、実際にモデル校として、武内小学校の先生方の状況を少しお話すると、当初4月に官民一体型も含めて、新しい教育手法をやるんだという話をしたときには、もちろん漠然とした不安も含めて先生方の抵抗感みたいなものもありました。ただここ2カ月でですね、説明していく中で、大きな不安というものは、少しづつ解消されてるんじゃないかなと思います。

つまり先生方と一緒に作り上げていくんだと。決して、民間のいいものをそのまま導入できるわけではないと、これは繰り返し繰り返し学校の中でも言っているので、そういった漠然とした当初の不安は解消されてるんじゃないかなというふうに思います。

ただ、そうは言ってもこれからつくるので、細かな不安、本当にこれは子どもたちのためになるのかとか、本当にこれ、21世紀型のスキルとしてはぐくめる教育手法なのか、これは不安があると思います。

ただこういった不安というのはとても大事だなというふうに思っていて、こういった不安が、むしろ前進、進行、前進する力になるんじゃないかなというふうに思っていますので、今は先生方とですね、こういった不安を大事にしながら解消していこうというふうに思っています。

総論はオーケーで、各論に反対という形なものにはですね、今その各論に対しても前向きになれるように、先生方と一緒に作り上げていくという体制ができてきたのが、今、現状かなというふうに思っています。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この前、高濱先生が武内小学校でしたね、されたときにね、佐教組の幹部の人も来ていたんですよ。わざわざ私に向こうから、僕はちょっと面識はなかったんですけど、佐教組のだれが来たかとは言いませんけれども、佐教組の幹部の方の名刺いただいたときに、ああやっぱり違うなと思いましたね。やっぱりいろんな判断があっただけいいと思うんです。

だけど1回説明を聞いてみるということ自体ね、僕はすごく好感を持ちました。

今まであまり好きじゃなかったんですけど、好きになりました。やっぱりこう、聞いてみ

てね、やっぱりこう判断をするというのは、すごい大事だと思うんですよ。そういう意味では、昔の医師会とは大違いだなと思いました。(笑い声)

○議長（杉原豊喜君）

11 番山口裕子議員

○11 番（山口裕子君）〔登壇〕

だれでもがですね、親もそうです。4人も子育てをしててもですね、本当に時代の移り変わりとかそういうので、だれでも、親も不安だと思うんですね。もちろん先生方が不安っていうのもあるでしょう。

それは、私は障がい者の支援活動をして、障がい者の相談委員でもあります。しかし健常者、ちゃんとすでに与えられてる子どもたちでも、障がい者になってしまうような不安だらけで、いろんなものを抱えてらっしゃる子どもさんもいて、親御さんも、別にちゃんと五体満足できちんとした子どもさんを本当にいただいておりますのに、すごく不安だらけの親御さんとかいらっしゃってですね、今、時代に必要なのは、こうやっっているような問題を出して、先生方も一生懸命になって、親御さんも一生懸命になって、行政側も一生懸命になって、今、どうもできない時代になったものをですね、みんなで力を合わせて解決していけば、次に進んでいくんじゃないかっていうふうに私は思いますので、今、こうやって投げかけられているこの時期をですね、大事にさせていただきたいなというふうに思っております。

先生方も、本当にあの先生が鬱になって休んであるとよとか、そういうのが意外と保護者の方から、伝えられたりとか、それは、よく聞くようになってきということはですね、やっぱり先生方のそういう状態にあるんじゃないかなって。先生方も、1人の人間として、しっかりとした生きる力っていうのを身につけて、スペシャリストは最初からいらっしゃらないですから、みんな保護者の人は、PTA活動だ保護者活動だとか、一緒に先生と話し合いながら、タッグを組んで、一緒に私たちPTA活動もやってきた時代を思うとですね、私たち保護者が先生を育てるんじゃないのとか言ってきた時期があったので、そういう意味からしたら、やっぱり今、大きく変化しようとするときに、先生が最初からスペシャリストでもないし、世の中の変化をまるごと全部受け入れることができる人ばかりじゃないので、やっぱりそこはみんなで力を合わせていくべきだというふうに思うので、今こういうコミュニケーションというか、行政側が取ったり、公開でいろんな説明会をしてるっていう時期に、やっぱりたくさんの方がそれに関心を持って、参加して意見が出るっていうことが大事なことだと思います。それに関して市長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もうそのとおりだと思いますね。

やっぱりこう、僕は、万機口論に決すべしだと思ってるんです。

ですので、今この段階から百家争鳴、いろんな御意見、前向きな御意見もあればね、すごく批判的な御意見もあります。それは、凄く良いことだと思っていて、そこが今、武雄のある意味勢いの現れだと思うんですね。

だから、そういう意味でいろんな御意見をお聞かせ願いたいと思いますし、前も少し答弁いたしましたけれど、先ほどの学校の先生の話なんですけどね、もともとよく、代田教育監が申し上げているように、負担感と負担ってやっぱ違うんですね。負担感と負担というのは。そこは私も教えられた気持ちがしますので、これからは自分の言葉としてそれを喋っていこうと思ってるんですが、それはそれとして、例えば、A小学校が決まったとしたときにね、私は嫌ですってあったときは、その嫌ですという自由も尊重しようというふうに思います。

保護者の意向もあると思うんです。それについても、よっぽどじゃない限りね、そこは、なんというんですかね、選ばない自由というのね、ちゃんとやっぱり尊重しなきゃいけないと、それが、ダイバーシティ、多様性を認める僕は社会だと思いますので、その自由もきちんと確保をする必要があるだろうと。そうすることによって、やっぱりもっと前向きな議論が僕は出てくるっていうふうに信じていますので、ぜひ議会におかれても、そういう場を例えば市政報告会等でね、そういう場を積極的につくっていただければありがたいと、このように思っております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

11 番山口裕子議員

#### ○11 番（山口裕子君）〔登壇〕

先月ですね、花まる学習会の視察に行きましたときに、このコミュニケーションをとるところで、花まる学習会は子どもたちの授業風景が映されているんですが、凄くそのほかにですね、一番ここがポイントになるなという部分もあって、それは先生が、先生と保護者の連絡帳というのがあって、ここが大きなポイントで、お母さんの、本当にどんな問題でも不安に思ったこととか、疑問に思ったことを書いてもらうような連絡帳があって、それに先生方がきちんと答えてあるということと、やっぱり子どもさんの未来を見据えて、子どもたちはこうあって大丈夫ですよって、そんなに不安にならなくていいですよみたいな、返答のやりとりの連絡帳が、ここがすごく大きな力になってるんじゃないかなっていうふうに思ったんですね。みんな不安だらけなので、保護者の方もどうしたらいいのかわからない。先生方もそういうところがあったと思うんですね。こういうコミュニケーションをとるっていうところが、連絡帳というのがすごく大きく、力を沿えてるっていうことに気づきました。

それと私はきのう、初日だったですか、IQとかPQとかHQとか出てきました。おかげさまで、私は第二子長男を、一番IQの低い知的障がい者という形で、子育てをさせていただいておりますが、そのときに、本当に学校に入れて一緒に学べるのに、どうしてうちの子

だけは外に行かないといけないのだろうかとか、いろんな問題を抱えてたんですが、この花まる学習会の塾に行ったときに、こんな内容だったら、それくらい子どもたちは一緒にやれるなっていう、すごく私は嬉しかったですね。人と比較しない、全く。市長がおっしゃるように、自分の比較で、きのうの自分、きょうの自分、そして遅れていようが、そのペースについてきてなくても、だれ一人泣きべそをしたり、しゅんってしている子がいないですね。そういう世界を見たときに、それぞれに、IQだけで教育をしないということは、この学習をすれば、ほぼうちの子は療育手帳Bですが、ほぼAでもこの学習法でついていけるんじゃないかなというふうに思ったんですね。

それと、一人ひとりを認める。違いがあつていいんだよっていう、認める学習にはすごく効果があると感じたんですけど、そういうところでは、私は花まる学習をぜひとも、取り入れていただきたいというのを、感じたところですが、そういう部分から、教育長、市長、どういう考えをお持ちか、お聞かせいただけますか。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

ちょっと教育委員会にどういう問い合わせがあつたか、僕はまだ聞いていませんけど、少なくとも私に、いろんな今回の官民一体型学校で問い合わせがあるのは、実は障がいを持っているお子さんの保護者から非常に多いんですね。ここでそういう授業を武雄でして下さるのであればね、一家で引っ越しをしてきたいということをおっしゃって下さるんです。

私のほうから、なんでそのように思われたんですかと、確認のためうかがったらね、それは先ほど、山口裕子議員さんがおっしゃったこと、そのままおっしゃるんですね。

だから武雄市が今後目指す先というのは、今回、教育が一つの大きなきっかけになると思うんですけど、多様性をきちんとやっぱり認めると。多様性こそいいんだということ。それと、借りたお金はちゃんと返すんだということも含めて。(笑い声)

笑い事じゃないですよ。そういうモラルをね、大人がしかも議員が言わない限り、こんなこといくら言っても説得力なんてありませんよ、そう思いませんか。皆さんたち。

なんですか、宮本栄八議員さん、ですので相手しないほうがいいですね。(笑い声)

そういう意味では、あの人も多様性の一環なんで。(笑い声)

**○議長（杉原豊喜君）**

静かに。

**○樋渡市長（続）**

ですので、そういう意味で言うとね、やっぱり根底にあるところは、そういう真正直なところにそういう多様性がきちんとあつて、そこに子どもたちが感応するというよな、いろんな子どもたちにね、武雄で学んでほしいというのは凄く思っております。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

さっきもおっしゃったとおりでして、進学塾、受験塾との違いという……（発言する者あり）その中に、非常に幅広い対応力をもって、学習会を展開されていると。そこがまた、確にお母様方の魅力なんだろうなというふうに感じたところであります。

○議長（杉原豊喜君）

11 番山口裕子議員

○11 番（山口裕子君）〔登壇〕

今までですね、本当に子育て支援とか、いろんな形で、子どもたちをたくましく育てようということで、地域とか教育とかいろんな形で投げかけてきたと思うんですね。最終的に、子どもたちにいろんな体験をしてたくましく育てようという形で、保育園から田植えの体験とか、おじいちゃんおばあちゃんに学ぶとか、餅つきとか、いろんな体験をしていたんですね。今聞くと、私はそういう体験が必要だと思って、自分にできることは、小学校の読み聞かせに毎月行っていますが、それは地域のおばちゃんが、子どもたちのことを思って、楽しく絵本を読んでくれて、これがなんらかのきっかけになればいいかなと思ってしてます。そういうふうに地域の人と関わったりとか、いろんな形で体験が必要だという形で、やってきたと思うんですね。

この花まる学習会も、そういう体験ですね。サマースクールっていう形で、いろんな形で子どもたちに体験をさせようということで取り入れていることが、これだけの大人気になっていると思うんですが、これは、各家庭でやれていたことだと思うんですね。家族でキャンプに行ったりとか、家に田んぼがあるから田植えを家でしたりとか、家族でやっていたのが全部行政とか、学校とか、保育園とか、そういうところだけでしかなくなってしまったように思うんですね。もともと学校でやっていたのも私が小さいときというか、子どもの小さい時も、秋になれば理科では、落ち葉を拾いに行ったり、木の実がこんなのだって、体験で1時間授業があったり、川に住む生き物みたいな形で、川にみんな近くの西小学校の近くの川に行ったり、体験が組み込まれていたんですが、こういうのが本当になくなってしまった。

だけど体験が必要である。家庭でもしない。それを大事だっていって、花まる学習会がつくり上げてきたものですが、こういう体験を学校の中に入れていくって本当に大変だと思うんですが、週1とか、月1とかそういう形で入れようと思っているのかどうか、お尋ねいたします。教育長。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕



体験活動もいろいろありまして、非常に宿泊で出かけていって行くのも体験ですし、さっきおっしゃったように、校庭の落ち葉を拾ってきてやるのも体験でありますし、あるいは近所の学校の近くの川に行くのも体験。今体験的な活動をしていないかという、それは年齢に応じた体験は学校でもしています。

その積み重ねの中にですね、やっぱり、例えば反省することもあるんですが、ほとんどの学校が黒髪少年自然の家に、二泊三日なら二泊三日で宿泊体験に行くと思います。

そしたら、A小学校もB小学校も、C中学校もほとんどおなじメニューであるような状況もあるんですね。それはやっぱり子どもの実際からいくと、変わってこないといけないんじゃないか。

それに、一つの例ですけれども、同じ体験活動といいながら、やっぱり地域によって違うものもありましょうですね、それから、どうしてもやっぱり、私どももそうですが、やっぱり小さい頃は体験したことは記憶に残るし、それが自信になるし、誇りになるし、ものを言いたい材料になるし、書きたい材料になるし、そういう意味で、その体験活動を、あの花まるのパターンを見せてもらいますと、いろんな角度から切り込んでしてあるということで、今の魅力ある体験活動になっているだろうというふうに思うんです。ですからそういう意味で、私どもと一緒に、教育監いつも言いますように、一緒に、今の先生方と一緒にどういうのをつくり上げていけるかということに、保護者、地域の方のお力添えいただけたらと、一緒になってしていただけたらというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

11 番山口裕子議員

○11 番（山口裕子君）〔登壇〕

ある意味考えたら、新しく民の力、花まる学習会の力と言うけれど、もともとそういう教育というか、そういう形だったものが、元に戻るような気もするんですね。モジュールとか時間があって、システムされるかもしれないですけど、私としては、先生が朝来たときに、子どもたちの遊びの中に入れてくれて嬉しかったように、先生と一緒に、子どもたちとドッチボールする時間が15分あったりとか、そういう、昔やってた時間が無くなってきてるのを、改めて、またそういうふうに入れていくんじゃないかというふうに、私は受け取っています。

新しい名前で、花まる学習会とかの塾の名前がでていますが、今まで、そうやって、教育があったような気がするんですね。それを取り戻すような気もいたしますが、次の質問。

○議長（杉原豊喜君）

ここで議事の都合上、1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	11時58分
再	開	13時20分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。11番山口裕子議員

**○11番（山口裕子君）〔登壇〕**

午前中に引き続き一般質問させていただきます。

教育について、午前中は官民一体型という形で質問させていただきましたが、保護者も先生も行政もですが、みんな一生懸命これまで教育に関してやってきたところ、やはり方向を変えるとか、見方を変えるとか、そういう取り入れなければならない時代になってきたというふうに思うんですが、本当に先生方はよく頑張ってもらってるし、親も一生懸命だと思うんですが、その上になんか項目として教職員の資質向上とかですね、挙げられていますが、大変な中ですね、こういう取り組みをされているということですが、内容的にどんな取り組みをされているかお聞きいたします。

**○議長（杉原豊喜君）**

代田教育監

**○代田教育監〔登壇〕**

教職員の資質向上のために、どんな手だてをしているのかという御質問ですが、教員の資質向上に向けて教育委員会なりがですね、上からトップダウンでこういった研修をしないという形の押しつけは、まさに先生方の負担感を増やすだけだというふうに考えています。大事なのは、先生方が自らこういう勉強をしたいということ、教育委員会としてはサポートしていくということが大事かなというふうに思っています。その点で武雄市のほうではですね、先生方が自主的な勉強の機会を持っています。

24年度、一昨年度から25年度、2年間かけて毎年ICTスキルアップセミナーという形で、これは先生方が勤務時間外に自分たちで集まって、しかも自分たちでお金を出し合って研修をするという勉強会が盛んになっています。実際にそこに先生たちは100人以上の登録があってですね、毎回100名程度の先生が集まっているという状況です。市教委としては、まさにそういった先生方のやる気をサポートする意味で人的資源の提供であったりとか、サポートをしていく、こういう活動に注力すべきではないかということで活動を行っています。

**○議長（杉原豊喜君）**

11番山口裕子議員

**○11番（山口裕子君）〔登壇〕**

ICTスキルアップセミナーとかですね、やっぱり先ほど市長は選べるようになって言われましたけど、私も大変苦手なんですけど、ICT社会というのは本当これからは避けられないとか、本当は私はとても苦手です、あれなんですけど、ICT社会に対応していく、それにグローバル化、少子化というのは教育長もおっしゃっていましたが、これからの時代は避けられないことかなと思っています。やはりいち早く子どもたち、先生もそうですが、

対応していくためにはこういう努力が必要になってくるんじゃないかなというふうに思っています。

これから質問ですが、スマイル学習という形で始まっております、このICT社会に対応する子どもたちというところにつながっていくと思うんですが、まず最初に、私は花まる学習塾みたいな子どもの力、生き抜く力を基本として、そしてその中に勉強の仕方というか、ICT社会化、こういうタブレットという形の導入が入っていくという順番だったら、なんとなく入りやすかったかなと個人的に思うんですが、私もなかなか受け入れられない1人なんです。息子たちに言うと、やはりうらやましかねあって、よかなあというふうに言います。子どもたち全員にですね、タブレットが渡されて夢が広がるというか、わくわくするっちなかというふうに言います。

時代が、世代が違ったらですね、こういうふうな受け取りになるんだなと思ってるんですが、そうして私もそういうICT社会に向けて、自分も勉強していかないといけないと思うんですが、社会は世界中がですよ、こういう形で進んだときに武雄市はこうやって一人一人の子どもたちにタブレットが渡されるということは、とても裕福なことというか、豊かな環境だなというふうに思うんですね、これをどうこういう前に普通は買ってあげられないお家があったりとかですね、一緒にみんながこうやって学ぶことができなかつたはずが、こうやって全生徒に与えられるということは、とても豊かなことだなと。

それからまた次にですね、いろんな広がりが出てくると思うんですが、やはり日本再興戦略の1つで閣議決定されているのが2013年6月14日に、もう2010年代中に1人1台の情報端末による教育の本格展開に向けた方策を調整し推進、義務教育段階からのプログラミング教育などのIT教育を推進というふうに、もう打ち出されているわけですよ。

そういうふうなことを考えると、これは目的が産業競争力の厳選となるハイレベルなIT人材の育成、確保というふうになっていますが、こうなると、本当にタブレットとか全生徒に与えられると、次にはこういう形が見えてくるんじゃないかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も日本再興戦略、これは閣議決定、去年のね、6月14日ですけども、もう驚きました。世の中がこうまで進んでいるのかと。

実際アメリカでは、去年の12月にオバマ大統領が全米の教育のフォーラムで、こういうことを言っているんですよ。プログラミング——ゲームをするんじゃなくてね、今度はゲームを作る側にまわらましようって。これは自分たちのためじゃなくて、アメリカという国家のためであるということ、オバマ大統領が去年の12月にもう言っているんですね。

あとイギリスでは、もう2年前の9月から、5歳から16歳の生徒を対象にプログラミングを必修化しているんですね。シンガポールも公立学校へプログラミング導入を今検討して、もう間もなくやるとは思うんですけども、こういうプログラミングというのは、単に覚えるんじゃなくて、思考のあり方とかいうこと。要するに、いい加減なプログラミングだとパソコンは動かんわけですよ。ですので、これはある意味、論理教育にもつながるわけですね、論理教育にも。ですので、これは必要だなというふうに思っています。

そういったことで、タブレット。これ代田教育監からも答弁がありますように、まだ1年生、2年生というのは配ったばかりなんですね。まだそれ用にコンテンツも入れていないので、ちょっと今すぐっていうのは厳しいかもしれませんが、プログラミングを入れるっていうことについて、ちょっと積極的にやっぱり考える必要があるだろうというふうに思っていますし、ぜひそれは議会からもね、IT特別委員会をはじめとして、議会からもぜひご意見を賜ればありがたいというふうに思っています。

それで私は少なくともね、小学校で英語やるよりは、プログラミングやったほうが絶対いいです。小学校で英語やるよりは、プログラミングがもう絶対いいです。それはなぜかというと、食べる道具になるから。1人1台のスマホになっていったときに、プログラミングをする人が今、決定的に我が国では不足しているんですね。英語を喋る人はいくらでもいるんですよ。

ですので、社会が本当に本質的に求められているものに対して、やはり公教育が一定にそれを、やっぱりこう担うということが絶対求められると思うんですよ。そうすることによって、私は論理的思考力も含めてね、あと数学的理科的な思考力も含めて、しかも自分がつくったものがね、例えばゲームになったりするとするじゃないですか。それがこう動くっていうのは、もの凄く喜びだと思うんですよ。

それは先ほど山口裕子議員からもあったように、タブレットと物すごく親和性が高いんで、そういったことをちょっと教育委員会とタッグを組んでね、やっていければいいなというふうに思っています。具体的な検討については、検討といっても、この場合やりますからちゃんと。普通はやらないというので検討使いますけど、この場合はやる方向でちょっとしていきたいと思います。

でもね、その前にはやっぱりモラルが必要なんですよ、モラルが。借りたお金はちゃんと返すというモラルが必要だと思っていますので、そのモラルなくしてね、いくら道具を作ったってね、それは砂上の楼閣です。それを我々大人が、特に議員がそれを示すべきときにきているんじゃないかなというふう思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番山口裕子議員

○11番（山口裕子君）〔登壇〕

なかなか私自身ですね、ICT社会に、グローバル化社会というふうについていけないんですが、やっぱり子どもたちやら孫たちの時代は、もうそれが当たり前の時代になるし、せつかくこうやっていい物が与えられているからですね、さらに進んで行かれたらいいんじゃないかというふうに私は思います。

それでは次の食育について、質問させていただきます。生きる力ですね、メシの食える大人にとか、今頻繁に出ておりますが、私は本当に食育っていうのが、子どもたち、本当にしっかり身につけるべきことだと思うんですね。食はそれに人をつなぐとも言われますように、食べれる子は元気もあるし、やっぱり食は大事だと思ってるんです。

合併してですね、そういう世の中の流れで武雄市にも食育課ができました。今年8年目に入るそうです。私もできたときにいろんな質問をさせていただきましたが、武雄市の取り組みとして、丸7年経ちました。取り組みとか結果ですね、どういう武雄市になっているかを聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども部長

○諸岡こども部長〔登壇〕

（モニター使用）食育課のこれまでの取り組みでございますけども、平成19年の4月に食育課を設置をいたしました。食育推進計画を策定をいたしまして、平成24年3月には、その改定を行っております。この計画に基づきまして、武雄の食育寺子屋実行委員会を組織し、五感を使った食育体験プログラムを実施、地域や家族ぐるみの食育推進に取り組んでまいりました。

また、乳幼児期から高齢期までの各ライフステージに応じた異なる食のあり方について、庁内の各部署において、健康、食に関するさまざまな事業を実施しております。食育推進計画に基づいたさまざまな事業の推進に伴い、生涯にわたる食育に対する理解が深まってきたものと感じております。

○議長（杉原豊喜君）

11番山口裕子議員

○11番（山口裕子君）〔登壇〕

今、教育が話題になっていますが、やっぱり同時に食育っていうところも前にもっと出していただきたいなというふうに私は思っております。今あったように活動としてはすばらしいし、食育寺子屋とかいう形で地域の方とかですね、一緒に食育に取り組んでおられるようです。

その反映の仕方ですが、じゃあ武雄市にどんなふうに反映していくかというところで、一番大きく出てくるところは、学校給食とかですね、地元の食品とか地産地消というところから、どれくらい学校給食に地元の食材が入っていったのか。

ひところ、本当この食育課ができたときに、何パーセント目標とか、そういう形でよく言われたんですが、現在学校給食の地産地消という形で県内産、武雄産、比率はどれくらいになっているか、お聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

諸岡こども部長

○諸岡こども部長〔登壇〕

学校給食における副食の県産材等の使用の割合でございますけども、現時点で50.2%の成果になっておりまして、これについて、ぜひもっと上げようというような事業を今後も取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔11番「目標は」〕

目標は10%上昇を考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11番山口裕子議員

○11番（山口裕子君）〔登壇〕

学校給食とかと同時にですね私は、やはりちょうど山内町の給食センターの老朽化もあってですね、武雄がやっているような給食の自校式っていうのをお願いしてました。それもいろんな形がなりまして、今年から、4月から山内は中学、東小学校、西小学校と給食室ができて、自校式の給食が開始されました。

この学校給食が今、目標は60.2%という形で、こういうふうに自校式が始まりますと、地産地消の地元の食材が取り入れやすくなるんじゃないかなと思って、そういう効果は見込めるのかどうか、お尋ねしたいんですけど。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

地産地消につきましては、どうしても海産物等は無理なわけでありまして、全体の地産地消をどこまで上げられるのかっていうのは、やっぱりその野菜類であるとかに絞らないといけないという限界があるわけでありまして。

しかし、いずれにしてもですね、これまでも50.2%という数字出ましたけれども、関係者の方にはできるだけ地元の物をという努力はしてもらってきております。青果店さんもそうですしですね、生産者の方も。しかし、やはり自校方式でやるということになりますと、やっぱり自分の子どもであったり、孫であったりが食べる物だという、その身近さというのはぐっと縮まるわけでありまして、そういうのは、各学校でこれほどなたがつくられたものだという紹介等もされている学校も多いわけでありまして。そういう意味ではですね、地産地消の件というのは随分高めていただくことができるんじゃないかという期待を持っており

ます。

○議長（杉原豊喜君）

11 番山口裕子議員

○11 番（山口裕子君）〔登壇〕

私としてはですね、やはりまず自校式になると、お昼近くになるとおいが漂ってきますよね、きょうは何だろうかなって、おなかをきゅーんってすかせたとき、あと学校に来たときに、きょうの給食は何かなって。

それで中に働いている人も、近所のおばちゃんが一生懸命つくっている様子があったりとか、おいがしたりとか、そういう効果は自校式にしたときは、すごく食育っていうところに大きくこういい方向になっていくんじゃないかなと思って、自校式がいいなというふうに思っていたんですね。

だから今言われたように、やっぱ生産者の顔が見える取り組みをしていただいたり、学校の畑とかですね、そういう活用で実際に畑でつくったものを学校給食でみんなで食べれるとかですね、そういう形がいいなと思うんですが、それは難しいんでしょうかね、自分たちでつくったものが食材に上がってくるみたいな給食ってというのは難しいんですか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

自校給食の良さというのは、たくさんあると思うんですが、一つとしてですね、学級園、学校園でつくったものを利用するというのは、実際にあり得るというふうに思っております。

ただ、もちろんですね、安全性とか衛生面とか、そのあたりはもう十分こう気をつけないといけないわけでありまして、その辺を配慮しつつですね、栄養教諭の方、栄養職員の方で調整をしていただくという形になろうかと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

11 番山口裕子議員

○11 番（山口裕子君）〔登壇〕

それでは、既に発表もされてると思いますが、農水省の学校給食、地場食材拡大利用っていう形で若木小学校が全国 33 校の中の一つに選ばれたというふうに聞いております。その取り組みをお聞かせしていただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）今、若木小学校の取り組みのお話がありましたけれども、もう御存じのとおり、市内いろんな学校でですね、田植えをしたばかりという学校もあろうかと思えます

が、いろんな学校で、たくさんのこういう取り組みをしてもらってます。

午前中話にありました、まさに体験だと思うんですね。田植えしたことないという農家も実際ある、子どもたちがですね、したことないという子どもさえいるわけです、そういう面では、非常に貴重な体験をしてもらっているというところです。

若木小学校の場合もですね、地元の協力者の方の指導を得たりして、米とか、大豆とか野菜等の栽培活動、それから収穫活動、そして収穫した食材を使用した調理実習で試食とか、その試食には保護者の方も加わっていただいたりですね、地域の方も連携した動きをしてもらっております。特に収穫などと言いますと、やっぱり子どもたち非常に喜ぶわけでありまして、少しぐらい曲がっていいようがですね、虫がついていようが関係ないという、家に持ち帰るとかなるともう、ウキウキしております。

栄養教諭による講話ですね。日曜参観のときなど、これは若木に限らず、いろんな学校でしてもらっていると思います。

そして、これも市内全校でご存知のとおり、5校時給食ということで、これは栄養の先生とか給食の担当の先生だけが頑張ることができる食育ではないということで、より意識して取り組んでいただくと。学校は学校の体制として取り組んでいただく。そしてそのことで、何で5校時給食ね、ということをお話にしていただくことで、家庭でもですね、食について考える。

これは2年、3年と続いてきたわけですけども、非常に全国的にも関心を持って、なるほどという声を聞いております。それぞれが目的を持って、学年ごとの目的を持って、4月は上手に準備と後始末をしようとかですね、1月は感謝して食べようとか、それぞれの発達段階別の目標を持って、食育に取り組んでいるという状況でございます。お話にありましたように、子どもたちやっぱり食べることとなると、何にさしておいて、関心を持つわけでありまして、その意味でですね、先生方もいろんな学習ともつながる。家庭科と、生活科と、社会科と、いろんなつながりの中でですね、極めて、こう有機的なつながりですね、つなげてもらって、その基盤として、調理室がそこに近くにあるということは、まさに活動の幅と深さが十分充実していくんじゃないかなというふうに期待をしております。

**○議長（杉原豊喜君）**

11 番山口裕子議員

**○11 番（山口裕子君）〔登壇〕**

この取り組みがスーパー食育スクールっていうふうに言うんですね。違いますか。私が聞きたいのは、この学校に選ばれました若木小学校が、今年始まるスーパー食育スクールって、たぶん言うと思うんですね。

これが午前中の教育とかで話されてた、子どもたちの体験から、やっぱり生きる力っていうのが、すごくつながってくると思うので、素晴らしいことを若木小学校なんかされてる



し、これを本当にもっとアピールしてつないでいくっていうかね、生きる力につないでいくには、やっぱりこれが給食に自分たちがつくったものが、お米が自分たちの給食に出てきて食べれるとか、野菜が自分たちの給食の食材になるとかっていうのが、すごくまたつながりを持つんじゃないかなと思います。

子どもたちも、クラスが少なくなったら自分たちのつくったお米を、クラス1つに炊飯器が与えられたら、昼食べるものは自分たちでお米を研いで、昼炊けるとかですね。そういう形に、食育っていうところがつながってくるといいなというふうに私は思って、質問させていただいております。

また、今、若木小学校を担当されている栄養士さん福山先生って方が、かつて唐津の浜玉中学校のときは100%の自給自足で、公開の給食という形で取り組まれたんですよ。だからぜひとも、なんか年に1回でも2回でもいいですが、公開給食みたいな感じで、皆さん、議員もそうですし、地域の人とかですね、そういう食育に関心を持ってもらうために、そういうのもやっていただきたいなというふうに思います。だからちょっとスーパー食育スクールにかける思いとですよ、どんなふうにつないでいきたいと思ってらっしゃるかというところを、部長さんなり、教育長さんなり、つないで結果としてこういうふうな形にしていきたいんだっていうところを、教えていただきたいなというふうに思います。

#### ○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

#### ○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）食育課での取り組みも、生涯食育ということを非常に強く言われましてですね。学校給食は、その学校に行く時代のところを集中して扱うとすると、こういうことだということなんですね。ですから、大人になって、本当にどういう食を自分でできるか、自立できるかということは、非常に大事なことだというふうに思っていて、それとその基本を、基礎的なところを学校給食でやると。

スーパー食育スクールにつきましてはですね、ちょっと趣旨が進化しておりまして、3つの矢印を出しております。一番下のピンクのところですが。

タブレットや測定機器を活用した児童の食習慣、生活習慣、健康状態等の把握、ここでタブレットが出てくるわけです。これは恐らく全国初だろうというふうに思いますが、子どもたちが1人1台持っているということは、もう扱いが、非常に子どもたち早く慣れるわけがありますので、なにかの数値をぽんと記録することで、1カ月、2カ月、3カ月することで、自分の食について自覚する機会を持てるんじゃないかと。これは、プログラムがかなり進んでおりましてですね、企業と、あるいは大学と連携する、左側の緑側のところにもありますが、地域や企業と連携した授業や講演。あるいは、右側にあります、企業と連携した客観的データによる分析と検証。つまり、一日一日は入力するだけなんですけれども、トータルと

して見ると、自分の食生活と、健康、体力、そういうことを自覚させることができるんじゃないか。これが食の自立にも、おのずとつながっていくんじゃないか。これはタブレットを1人1台持っているから、今年度は若木小学校でやってもらって、もしそれが簡単に生かせるということであれば、市内の各学校、全部の子どもたちが、その食を通して健康であったり、体力であったり、自覚する機会に広げることができるんじゃないかと。極めて期待を持った研究と思っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

11 番山口裕子議員

○11 番（山口裕子君）〔登壇〕

スーパー食育スクールというもので、もっと具体的に知りたかったのですが、一応聞き取りの中では大豆を育てて、それでみんなで味噌をつくって、味噌ができたら、味噌汁をみんなでするとかですね、1年生である体験をするっていう中身もあったようですが、そういうのとしたら、もう今すでにですよ、体験を通して、子どもたちが生きる力というところは、もうこういう形ではやってるんですよ、武雄市は。

まあ若木小学校だけかもしれませんが、そういうところをやっぱりつなげて行ってほしいし、もっとこういう生きる力っていうところをやってるので、そういうのをもっと、前に出して行ってほしいし、公開給食なんかもやってほしいし、生きる力はこれですよ、みたいなところも、保護者とか先生たちもこれだけやってるんですから、つないでいてほしいなという気持ちで、私は今回食育について質問させていただきました。食育の寺子屋とかですね、素晴らしい活動だと思いますので、ただ一部だけじゃなくて、これを本当、生きる力として、武雄市はこういう形でやっているんだっていうのを、もっと大きくアピールして見せていただきたいなっていう思いで、今回この質問をさせていただきました。

次に行きます。3番目、環境についてです。これは、今までいろんな問題を環境について挙げさせていただきましたが、今大きく環境が変わってきているのに、自然エネルギーという形で、太陽光パネルを活用するという、メガソーラーですね、それが普及しています。私は、単純に屋根の上に張られているメガソーラーとかですね、市が空いてる土地に有効活用として張られているっていうぐらいまでで、自分の中の頭はあったのですが、最近、本当に田んぼの後継者がなかったりですね、土地が荒れてるっていう、ちょっと思っているところに、どんどんメガソーラーが張られていっていると思うんですね。

そう思ったときに、何でとか、あそこも張られたねとか、土手のあがるところは崩れてきたら危なかつちやなかねとか、いろいろな意見を私のところに伝えてこられます。そしたら、これ景観とかはどがんなるって。私も、きれいなのが張られているから、景観が悪かとは言えんし、自然エネルギーに変えていくっていうことは、子どもたちに自然エネルギーを残していくっていうことは間違いなかって思うんですよ。

ところがこれがですよ、20年後に現行の買い取り制度が終了したときに、これが本当にこう、もし乱開発のようになると、これが廃棄物っていうかな、そういう時代がやってくるんじゃないかなというのも、ちょっと心配になる場所なんですね。これがいいとか悪いとかは言えないし、私はここに本当はパネルを用意しようかなと思っていました。いろいろ畑に張られている、土手に張られている、いろんな様子がうかがえてきましたので。

でも、これをパネルにすると、いい悪いとか、いいと思ってした人が非難されたりとか、そういう形になったらいけないので、まず、国が規制とかそういうのが必要なんじゃないかなと思うんですが、私に寄せられた人は、もう地権者の人がここに住んでいません。しかし、ソーラーを張ることにしましたと言って茶菓子を持ってきて、よろしく願いますということでした。張られるときには、業者の人が何も言わずに、業者の方がちゃんと説明に来られるかなと思っていたら、家の周りは、それに玄関口から全部こう張られたわけですね。やっぱりそれが窮屈というか、入り口からパネルが張られてて、人間関係っていうのが、やっぱりそこで崩れてきたり、そうは思ってたのに、お菓子一つでオッケーしたという形が生まれてきたりですね、地権者の人が願いますって言いましたって、それで成り立ったり。

これは民と民のやりとりだから、今のところ、行政がどうだこうだっていうのはないんですが、これからですね、もう既に畑とか田んぼとかがですね、規制のあるところ以外は農業委員会でも許可がおりているようですので、もうちょっと、こう市がですね、管理しないといけないようなことが出てくるんじゃないかなというふうに私は危惧しているんですが、やっぱり温泉地であること、黒髪山の山溪のすばらしい自然のまちづくりのこと、いろんなこと踏まえて、今後どのように対応していかないといけないか、市長さんはどうお考えか、ちょっとお聞かせください。

**○議長（杉原豊喜君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

これ3つに分けて考える必要があると思うんですね。1つは、先ほど山口裕子議員さんからあったように、民民の関係があるということ。これは行政は、基本的に口を出しちゃいけないと思うんですね。ですので、それは日頃の人間つき合いをちゃんとしとかなきゃいけないんだろうなっていうことは思うんです。

一方で災害の件ですよ、もう一つが。法面だとか、それは今でも1,000平米以上のものについては規制がかかって、届け出してこちらで審査をするっていうふうに制度を持っているんですけど、これ本当1,000平米でいいのかなということで、これ見直しを図りたいと思います。

ですので、もう少し、1,000平米じゃなくて、もう少し少ない面積でね、その規制の対象

にする必要があるだろうというふうに思っています。

そして3つ目なんですけど、景観です。景観は人によってね、これはいいんだとかいうのもあるんですけど、少なくともそうは言っても、景観の重点地域は今でももう規制をかけてますので、黒髪山の周辺だったりとか、御船山楽園、武雄温泉ですよ、であったりとかっていうところについては、これは条例改正をしようと思っています。その分だけ条例改正をするにあたっては、議会でちょっと——これどの委員会なんですか、これ。（「産業だよ」と呼ぶ者あり）産業——これ委員長は誰でしたっけ。（発言する者あり）末藤議員が委員長みたいですので。ですので、ちょっと議会で、ちょっとこれ議論をしていただいて、その上で私は個人的にこれ必要だと思っています。ですので、そういった議論をまず議会でしていただいた上でね、私たち執行部と話をさせてもらって、実際条例を出すときは、我々のほうから出しますので、ぜひ議会とこの件に関しては議論をさせていただければありがたいと思います。

大きく3つに分けて考える必要があるだろうと思っていますので、御指摘に沿って、今後規制を強化する方向で考えたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11 番山口裕子議員

○11 番（山口裕子君）〔登壇〕

すみません、農業委員会のほうの質問もしたかったんで、後でしますけど。

やっぱり自然エネルギーっていう形をですね、とろうと——原子力発電のやっぱり危なさとかですね、そういうのから考えたら、自然エネルギーが普及していくっていうことはいいなと思うんですね。

だから、やっぱり、今始まったことだから、やっぱりどういうふうに整備していくかというところが大事になってくると思うんです。だから、先ほど私の届けられた、家の周りに張りめぐらされるのも、まあ、環境条例か何かで自宅の何メートル以内は張ることはできないとかですね、そういうことでも決まったら、そのとおりされて、その人が気分悪くすることもないと思うんですが。あつという間に自分の家の周りは、それに囲まれていたっていうような状況にならないようにですね、まあ、なりつつあってるんですね、そこが、苦情があつてるところが。

それに、もう既に黒髪山山溪に行く畑とかですね、そういう形が生まれてきていますので、やはりこれは早急にするべきじゃないかと思います。

今年やっぱり、温泉観光とかで取り組んでいる湯布院が、今年の1月に公布しました。やはり買い取り制度と、節電によるメリットから富裕層の個人、不動産投資家、また大手ゼネコンなどの大企業が参入して、競争が激化しているということで条例ができておりますので、やはりこれは早く整備をしないとイケなんじゃないかなというふうに思っております。

あと、農業委員会とかも次々に、先ほどあったように休耕田とか、そういう形で圃場整備以外のところは、簡単にこう転用ができるというふうに聞いていますので、まあ、どれくらい今上がってきているか、お尋ねします。

**○議長（杉原豊喜君）**

秀島農業委員会事務局長

**○秀島農業委員会事務局長〔登壇〕**

先ほどの御質問の件でございます。平成 25 年度中の太陽光発電にかかる農地転用は 23 件で 45 筆。総面積は 18,382 平米となっております。その内訳は、田が 6,088 平米、畑が 12,294 平米となっております。

**○議長（杉原豊喜君）**

11 番山口裕子議員

**○11 番（山口裕子君）〔登壇〕**

農業委員会のほうでも、きちんとした規制の中で、今転用されていると思うんですが、やっぱり今ちょっと世間はこういう形で、空いていけばメガソーラーを張りませんかという電話なり広告なり、本当に次々に来ています。お年寄りさんもわからなくて、どがんしようかなって、でも誰も田んぼ荒らしたまま頼む人もおらんという形で、やっぱりこれにしようかなという話もたくさん出てきておりますので、やはり乱開発にならないように。

そして、私たちは本当に子どもたちの時代に、本当にこれを残して子どもたちが、ああ、よかったって言えるような社会にしていけないといけないと思うので。50 年後、100 年後にですね、これが乱開発だったって言われないような形で自然太陽光エネルギーっていうのを受け入れていけないといけないと思うので、これからの整備ですね、そういうことをきちんとやっていただきたいなと思います。これからだと思いますので、しっかり武雄市のほうも考えていってほしいなと思います。

これをもちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

**○議長（杉原豊喜君）**

以上で、11 番山口裕子議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、10 分程度休憩をいたします。